

ヨシゴイ（サギ科） 全長36.5cm

国内のサギ類中、最も小さい。一日の大半を水辺に生えるヨシの繁みに潜んで過ごすため、姿を見ることは極めて難しく、その暮らしぶりはまるで忍者のようです。

大曲の飯田沼釣り公園で繁殖するヨシゴイが見つかりました。数人の釣り人が糸を垂れる岸边から、対岸の営巣地までは僅か10メートルほど。

ヨシの繁みの中に巧みに作られた巣は、外側から見つけることは殆どできません。



ヨシ原の最上部に出てくると、周囲の安全を確認して飛び去って行った。

ヨシゴイが水面をすれすれに飛びながら、す〜とヨシの繁みの中に入って行きました。もしやと思い繁みに近づき丹念に探してみると、巣の中に3羽の雛が見つかったのです。雛の大きさから、孵化して7日ほどでしょうか。まだ頭部には産毛に該当する綿毛（めんもう）が生えています。

巣はヨシの茎を何本も折り曲げ、産座にしています。更に上部は、茎を巧みに折り曲げた屋根までついていました。これでは外部から見えるはずがありません。



ぬき足さし足でゆっくりと歩きながら首を思いっきり伸ばし、水中の獲物に狙いを定めた。



集中豪雨と沼の増水により、壊れかけた巣の中で雛はじっとこらえている。

7月23日、大仙市を襲った記録的豪雨。

雄物川の増水により、飯田沼も一気に水かさが上がったのでしょ。翌日現場に行ってみると、ヨシ原は最上部がわずかに見えるだけの状態です。

3羽の雛は水面すれすれの茎につかまりながら、必死になって耐え忍んでいます。親鳥は交替で餌を運んで来ました。更に壊れた巣を修復し始めたのです。

なんとという親子の愛情でしょうか。



雛のもとへ親が戻ってくると、餌を与えた。



葉っぱの陰から3羽の雛が見えますが、わかりますか？。

26日、水位は元の状態に戻り、親子はなんとかこの難関を乗り切りました。

雛は、あと10日も経てば巣立ちを迎えるでしょう。元気になって、秋の渡りに備えてほしいものです。